



重大問題領域

1. 女性と貧困
2. 女性の教育と訓練
3. 女性と健康
4. 女性に対する暴力
5. 女性と武力紛争
6. 女性と経済
7. 権力及び意思決定における女性
8. 女性の地位向上のための制度的な仕組み
9. 女性の人権
10. 女性とメディア
11. 女性と環境
12. 女兒

北京で開催された第4回世界女性会議から20年の節目を迎えた2014年5月、UN Womenは「女性のエンパワー、一人ひとりのエンパワー：思い描いてみよう！」をテーマにキャンペーンを開始しました。このキャンペーンは、世界中の人々にジェンダー平等が実現した世界がどのようなものかを思い描いてもらい、現実に立ち上がるための活動の後押しをするためのものです。



北京行動綱領 -あの時、そして今、私たちが突き動かすもの-

1995年9月、第4回世界女性会議に向け、会議参加者1万7千人、NGO3万人という、かつてない数の人々が北京に集結しました。世界中から集まった人たちが胸に抱いた決意はひとつ、「全世界でジェンダー平等、あらゆる女性のエンパワーメント」を実現することでした。189カ国の政府代表の間で、白熱した討論が繰り広げられ、取り扱う問題領域の広さという点でそれまでにないグローバルな誓約が生まれました。NGOはパラレルフォーラムを開催し、政府代表に対し働きかけました。会議の終わりに、女性の権利実現の道しるべとなる北京宣言と行動綱領が採択されました。

北京行動綱領には12の重大問題領域を網羅した責務が規定されています。20年後の今も、行動綱領は常に活動の拠りどころであり原動力です。行動綱領には、女性と女兒の自由と選択が尊重されること、暴力を受ける心配がないこと、学校へ行くこと、様々な決定に関与すること、同一価値労働に対し同一の報酬を保障されることをはじめ、女性と女兒のあらゆる権利が実現する世界が構想されています。

世界各地で大きな進歩がありましたが、行動綱領に描かれている、人生のあらゆる場面でジェンダー平等が実現する日を迎えるには、まだ多くの問題が残っています。概して女性は男性より収入が少なく、劣悪な条件で働いています。女性の3人に1人が一生のうち身体への暴力や性暴力の被害にあっています。リプロダクティブヘルスと保健医療が十分に整備されていないため、毎日800人も女性が出産により命を落としています。北京会議から20年になる今年は、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントに向けて決意を新たにし、政治的な意思を高め、社会を動かすまたとない機会です。一緒に行動しましょう。